第8回国際双生児研究会議に出席して

平成7年5月28日から6月1日まで，アメリカ合衆国リッチモンド市のオムニホテルで開催された第8回国際双生児研究会議に出席した．この会議は，1974年のローマでの第1回目の開催から3年毎に開かれ，1992年の第7回会議はアジアではじめて東京で開催された．この会議では厚生省の後援をえて，開会式では当時の児童家庭局長・土井豊氏に祝辞を頂いた．その節は，当時の母子衛生課長には大変お世話になりました．

第8回国際双生児研究会議は，招待講演Ⅰ，シンポジュウムⅠ～Ⅷ（46題），口頭発表（82題）およびポスター（28題）発表など合計157件の発表が行われ，日本からは24名が出席した．研究内容を大きく分類すると，多胎妊娠，ふたごの生物学，ふたごの行動発達，ふたご研究の方法論，ふたご資料（登録簿）を用いての成人病（癌，心疾患など）の成因解明，生存率の研究，エイジングの研究，てんかんの遺伝学，精神疾患の遺伝学など盛り沢山な研究発表が2～3会場で同時進行で行われた．筆者は「わが国における多胎発生率と死産率の長期動向」について報告を行った．

前回の東京会議では，ツインマザースクラブ（主にふたごの母親から構成）の会員多数が参加し，会を盛大にした．今回は本会から14名も出席し，世界に日本のふたごのお母さんのウーマンパワーをアピールした感がある．次回の第9回大会はヘルシンキでの開催が決まった．なお，筆者は総会において国際双生児研究協会の副会長に選出され，今回は2度目の就任である．任期は1995年6月～1998年5月までである．6月1日の総会後に開催された第1回目の役員会に出席した．

（今泉洋子記）

外国関係機関からの来訪者

（1995年4月2日～1995年7月1日）

5月30日　Machiko Yanagishita (Senior Demographer, Population Reference Bureau, USA)

6月21日　Yoshinori Kamo (Associate Professor, Department of Sociology, Louisiana State University, USA)